

第 35 回 荒川太郎右衛門地区自然再生協議会 議事録

●平成 25 年 12 月 3 日(火) 18:30～20:35、上尾市文化センター

【議事結果】

- 広く参加者を募集するための協議会設置要綱と募集要項の改正案について、原案のとおり改正する。
- 実施計画に対する事業の進捗や課題の整理の仕方については、配布資料のとおりで良い。
- 今年度のモニタリング調査結果と、これまでのモニタリング結果のとりまとめについては、次の協議会で提示する。
- 管理目標WGより、①維持管理メニューの洗い出し、②維持管理に必要な人員・コストの算出までを管理目標WGで検討し、③組織体制の検討および④資金確保策の検討については、全体構想書で示される専門委員会を新たに立ち上げて検討することについて提案がなされ、協議した結果、提案のとおりの方針を進めることで合意した。
- 来年度も引き続き、春と秋のイベントを開催する。そのためにイベント実行委員会を立ち上げる。実行委員長は川島委員とする。

【主な議事内容】

◎協議事項

●第 34 回荒川太郎右衛門地区自然再生協議会議事録

(質疑応答無し)

●協議会への参加資格条件について

- ・ 前回協議会の提案事項である、協議会委員の応募条件を緩和する、協議会の設置要綱と募集要項の改正を了承する。

改正の内容は、協議会設置要綱の第 6 条の委員の条件とされている「地域住民」を「個人」に変更し、地域の外からの参加を可能とする。

協議会募集要綱の応募資格の「18 歳以上の桶川市、川島町、上尾市在住」の条件を削除し、地域の外からの参加および 18 歳未満の参加も可能とする。ただし、「荒川太郎右衛門地区自然再生事業の主旨に賛同し、熱意をもって参加・活動する」の条件を追加する。

- ・ 参加者の審査はどのように行うのか？

→ 申込時に作文を提出して頂き、その内容を確認する。これは今までも同様である。(平成 25 年 4 月の第 VI 期委員募集時には新規応募が無かったため、実際の審査は行っていない)

●これまでの事業進捗について

(質疑応答無し)

- ・ 配布資料のとおり整理する。

●生態系モニタリング専門委員会の活動

(質疑応答無し)

- ・今年度のモニタリング調査報告と、これまでのモニタリング結果のとりまとめ資料の案は、次回の協議会で報告する。

●管理目標WGの活動

(工事・既往整備地関連の報告事項については質疑応答無し)

- ・三ツ又沼ビオトープの数値を参考として整理しているが、実際の活動では環境教育や荒川上流河川事務所が担っている事務局などが含まれ、表の数値に出ていないものがあるので注意する必要がある。この資料で書かれた「整理された数値の3倍が必要となる可能性がある」はそのとおりと思われる。
- ・三ツ又沼ビオトープと太郎右衛門地区自然再生地は公有化され、太郎右衛門地区では協議会も立ち上がっている。また、三ツ又では、リーダーがいて、かつ事務局があり、体制ができてきている。江川では、サクラソウトラストのメンバーが現地に行かない日というのは無いくらい活動を実施している。これらの地域を一体とした管理体制を組み、熱意のある人を取り込んで活動を継続する必要がある。
- ・太郎右衛門地区は、2000万人の流域住民のものであるとしなければ維持が出来ない。こうした人たちからお金の面でサポートしてくれる人を集めることが必要で、そのためには自然再生の理念を維持しつつ彼らが喜んでくれる環境を作らなければならない。管理目標WGでは実行可能なことに限定して自然再生のコアな部分を議論してきたが、地区全体の400haを活用するにはもっと様々な取り組みがあっても良い。現在は60-70代のメンバーが多いが、若い人たちに託すことが出来、国も自慢できるようなものを作っていくためには、WGではなく委員会で議論する必要がある。
- ・三ツ又も単独では持続していけない。江川もまとめて活動が出来る組織が大事であり、そのためにも委員会を立ち上げたい。
- ・自然再生にはあまりお金をかけたくないし、日本の自然は少し手を加えれば戻っていくものだと思う。多少時間がかかっても、環境だけ整備して、あとは自然の力を利用していくようにし、どうしても急ぐ部分はハンノキ林の再生のように目標を立てて移植するくらいが良い。専門集団を必要に応じて利用すれば、もっと安く出来ることもあると思う。
- ・自然に任せる部分があれば、手をかけざるを得ない部分もあり、整理は必要と思う。
- ・三ツ又の場合はもっと手をかけたいが人手が無い。太郎右衛門にしても、現状はすでに自然とは言いがたい部分が多く、放置しても外来種が繁茂してしまう。これを何百年も我慢することは出来ない。そのためにお金をかけて取り組んでいるのであって、それでも上手くいかどうかはまだわからない。牛糞が撒かれた場所は問題が大きい一方、桑畑だった場所は自然に戻りつつあるなど、場所ごとの特性を詳しく見た上で適切に対応する必要もある。そのためにモニタリング委員会や管理目標WGがこれまでも必要だった。そして現状の課題を踏まえれば、WGよりもしっかりした委員会が必要だと思う。
- ・協議会では、これまで維持管理については本格的に議論をしてこなかった。自然再生全般における維持管理の考え方自体が確立されていないせいでもある。自然に任せる考え方も維持管理が必要という考え方もどちらも正しい部分があれば難しい部分もある。ただし、これま

でのような行政的な考え方で維持管理のメニューとコストを出しても、実効性が無い。維持管理は、「実際に管理する人」が計画を立てない限りは上手くいかない。協議会では、組織や資金などの体制までは責任を持って作る必要があるが、実際の具体の管理の計画については実行する人が立てる必要がある。そして、国が整備する場所の管理は、国が責任をもって実施しない限りは上手くいかない。

- ・ 維持管理だけでは人が来ないので、夢を持って取り組めることが欲しい。
- ・ 組織・資金を含めた維持管理に関する議論は、これまでの WG ではなく責任を持てる場で行う必要がある。組織のあるべき論は協議会で決めるべきことである。本来、この地区での自然再生は現在の本川を埋めて蛇行河川を復元することであって、それであれば湿地が自然条件の下で形成されていくので人為的な「維持管理」は必要の無いものである。実施計画においてこれをあきらめた時点で維持管理が必要となることは前提となっているので、そのことは協議会として責任をもって議論する必要がある。
- ・ このテーマに関して、この議論において何を決めるのかがわかりにくい。例えば、国有地は含めた話になっていると思われるが、民有の農地は含めたものとはなっていないと思われる。組織の体制によって取り扱える土地の範囲や管理のパターンがどのようになって、協議会がそこにどのように関わるのかなどの整理とシミュレーションが必要である。そしてこれを検討して提案する人が必要であり、今はそのような人を募集する段階と思われる。
- ・ 維持管理に関する専門委員会を立ち上げ、検討のたたき台を作成して協議会に提案を行っていくことで、今後のこのテーマへの取り組みを進めていくこととする。

● 広報WGの活動

(HP については質疑応答無し)

- ・ イベントの反省会において、来年度も春・秋にイベントを実施してはどうかという提案があった。春に実施するとなるとこの時期から準備をスタートすることが必要となる。
- ・ イベントを実施すること自体は良いが、これまでは荒川上流河川事務所に依存しすぎており、やり方は変えた方が良い。
- ・ イベントには投資した金額に見合う効果が必要である。
- ・ 今後の組織のあり方を検討する中でイベントの位置づけも見直した方が良い。国がサポートとしてできることを前提として、市民側が出来ることを考えるのがやりやすい。
- ・ 単に宣伝とわりきることでもできるが、今のお金の使い方はもったいない。イベントそのものはお金をかけないやり方に変えたい。例えば参加者の送迎は無くて良いと思う。
- ・ 実行委員会でも、観察会などのお金のかからない内容が意見として出ている。参加者にも自力で来てもらうことにしたいという意見が出ている。そのために HP にもバスの時刻表を載せたし、自転車で来ている人もいる。本田航空さんもいろいろ支援してくれているので、知恵を絞って楽しいイベントにしていきたい。
- ・ イベントの目的・コンセプトをもっとイベントごとにはっきりさせた方が良い。
- ・ 何が楽しいかは人それぞれなので、働くことをイベントにすることも可能である。
- ・ イベントの実行委員会を立ち上げることを了承する。実行委員長は川島委員とする。
- ・ JR が主催している「駅からハイキング」と連携する方法もある。荒川の左岸の桶川市に泉福

寺があり、そこから橋を渡って太郎右衛門の自然を見てもらい、川島町の廣徳寺と太田道灌の陣屋跡とされる養竹院などを周り、桶川駅か川越駅に行けば良い。参加者は個々に歩くので、要所に案内人を置いておくだけで実施できる。

- ・ 助成をもらって、イベントを開催することで、備品が増えてきている。所有権や管理の問題について、法的な面も含めて考えておく必要がある。備品やイベント資金等の管理体制について、しっかりしたものとする必要がある。
- ・ イベントの効果を考え、目的やコンセプトをはっきりさせて実施する必要がある。

●今後のスケジュール

- ・ 今年度のスケジュールは、配布資料のとおり、了承された。

●その他

- ・ 三ツ又・江川と連携したエコロジカル・ネットワーク形成に取り組んで行くことは決定事項であるため、このテーマを関係者が一体化して検討する場を設けて欲しい。
→ 検討する場を設けることについては、大宮国道事務所、埼玉県と、荒川上流河川事務所で検討し、前向きに取り組みたい。